

登壇者紹介

*店田 廣文（たなだ ひろふみ）

エジプトの現代都市や人口問題の研究に従事するかたわら、2000年ごろから昭和初期の日本のイスラム研究や世界のムスリム人口の動向に関する研究を始める。その後、日本のモスク調査、日本に暮らす滞日ムスリムの宗教実践や生活・子ども教育調査、日本人のイスラム認識に関する意識調査などを実施。マスコ（モスク）代表者会議も開催。早稲田大学名誉教授。著書に『エジプトの都市社会』（早稲田大学出版部、1999年）、『日本のモスク：滞日ムスリムの社会的活動』（イスラームを知るシリーズ14、山川出版社、2015年）等。

滞日ムスリム調査HP：<https://www.imemgs.com>

*ダリア・ヒッシェム

2歳で両親と来日し、日本育ちのエジプト人。本来の専攻は情報工学だが、自身の経験をもとに、日本で育つムスリムの子どものサポートや、アラビア語・コーランやイスラムについて教えている。鹿児島大学での異文化理解の講義の他、各種国際交流活動で講演している。プライベートでは、4女の母。

*安和留ゾヤ（あんわる ぞや）

パキスタン出身の親のもと鹿児島で生まれ育ち、日本とパキスタンの国籍を持つ。ムスリムとして生きていくことを通して、多様な考えに触れる。鹿児島県立甲南高校の前生徒会長。

*安川あかね（やすかわ あかね）

神奈川県横須賀生まれ。西郷隆盛に傾倒し、27歳で鹿児島に移住。西郷南洲顕彰会評議員を最年少で務める（2012年3月任期終了）。現在は城山観光株式会社SDGs推進室室長兼人材開発部部长。鹿児島の観光業界で初めてヴィーガン対応を実現させた。SDGsを理解する中で多様性尊重の重要性を知り、全てのお客様に美味しく食事をしていただけるホテルを目指すことを決心。現在も西郷隆盛やSDGsに関する講演、研修会などを行っている。